

公明党 横浜市会ニュース 第57号

民衆の声
ボイス

VOICEよこはま

公明党横浜市議員団 〒231-0017 横浜市中区港町1-1 TEL.671-3023 FAX.681-2060 http://www.yhkomei.com/ E-mail:shikai@yhkomei.com



2012

安心と活力ある横浜を!

- 横浜市会公明党はめざします**
- 震災対策の拡充・強化**
- 小中学校等の公共施設の耐震補強
 - 大規模災害時に一元的な情報運用を可能にする(仮称)「被災者支援システム」の構築
 - 土壌や食品の放射線対策の推進
- 子育て支援・教育の充実**
- 小児医療費助成制度の対象を小学校6年生まで拡大、所得制限を撤廃
 - 中学校昼食の充実
 - 保育コンシェルジュのさらなる充実
- 健康社会の構築**
- 子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチンの無料接種を継続
 - アレルギー対策の充実
 - 高齢者・障がい者の孤立化の防止
- 横浜経済の活性化**
- 若者雇用支援策の充実
 - 中小企業の経営支援策の充実

マイがのうです。

一人のために、未来のために

**アクション
レポートせや**
VOL.137
発行:横浜市会公明党
政調会瀬谷事務所
瀬谷区三ツ境125-25
TEL.045-365-2054



横浜市議員
かのう重雄

新しい年
待望の瀬谷区新庁舎が
二月に竣工します。
今年も一人のため
未来のために
働きつづけます。



北外観

児童虐待を早期発見へ

横浜市は、児童虐待の早期発見につながる医師向けのガイドブックを発行しました。また、不適切な養育や児童虐待に対応する職員向けの養育支援マニュアルも改訂。これらは、加納議員の主張を反映する形で実現したものです。



不妊症対策が前進

不妊症は、妊娠が困難な「不妊症」とは異なり、妊娠はするが流産や死産を繰り返す症状。適切な検査や治療を行えば85%の患者が出産可能。党として、政府に保険適用などを要望し、その結果、治療へパリン注射薬に保険が今年から適用されます。



アレルギー対策がさらに前進

アレルギーの中でも重篤化すると死に至るアナフィラキシーショックに対処する自己注射「エピペン」の保険適用が昨年の9月に実現。これは「アレルギー」を考える母の会の園部代表らの要望を公明党が推進していたものです。



胆道閉鎖症治療に朗報

赤ちゃんの便色から難病の胆道閉鎖症を早期に発見するため厚労省は「便色調カラーカード」を母子健康手帳にとじ込むことを決定。これは、加納議員などが患者から相談されていた問題を古屋範子衆院議員と連携し、国へ求めていたものです。



実際の色と異なります

三ツ境駅がバリアフリーに

平成19年度より工事に着手していた三ツ境駅周辺のバリアフリー化工事が、昨年の三ツ境駅脇エレベーターの共用開始で終了。これは、加納議員の提案で、交通バリアフリー法に基づいた三ツ境駅周辺地区交通バリアフリー基本構想に基づくものです。



歩行者トンネルが開通

平成18年、目黒町住民、上瀬谷小PTA、瀬谷北部町内連合会などから要望されていた上瀬谷小通学路の安全対策を当時の冬柴・北川国交相、県警本部、市道路局、市教育委員会、瀬谷土木などに要望。その結果、東名高速下の歩行者用トンネルが昨年の12月18日に開通しました。

